

平成 28 年度年間指導計画「現代社会」（園芸科）

教科担当：

校長 印	教頭 印
------	------

教科	公民	単位数	2	履修年次	2年・園芸科	教科書「高等学校 新現代社会」（第一学習社）
----	----	-----	---	------	--------	------------------------

学習の目標	広い視野に立って、民主主義の本質に関する理解を深めさせ、現代における政治、経済、国際関係などについて客観的に理解させるとともに、それらに関する諸課題について主体的に考察させ、公正な判断力を養い、良識ある公民として必要な能力と態度を育てる。
評価のポイント	① 定期考査②ファイル、レポート、宿題などの提出物 ③授業への取組状況④出席状況等により総合的に評価

学 期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	備考
1	4	第1編 現代の政治 第1章 民主政治の基本 本原理と日本国憲法 ①政治とは何だろうか？ ②民主政治の展開 ③人権保障の発達 ④議会制民主主義と政治の特質	<ul style="list-style-type: none"> ・民主政治の本質を把握しながら、政治と私たちとの関わりについて理解する。 ・民主主義がどのように生まれ、発展していったのかについて考察する。 ・基本的人権がどのように確立し、広がっていったのかを理解しながら、現代の政治の特質について考察する。 ・各国の状況をインターネットや書籍を利用して調査する。 ・議会制民主主義の形態とその特質について把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・提出課題
	5	⑤日本国憲法の基本 原理 ⑥平和主義と自衛隊 ⑦日本の安全保障 ⑧法の下の平等と自由 権 ⑨豊かに生きる権利 ⑩新しい人権	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の成立過程を理解しながら、日本国憲法のもつ意味や、三大原理についても理解する。 ・日本国憲法の成立過程を学習しながら、大日本帝国憲法と日本国憲法の違いを考察する。 ・日本国憲法の全体像にふれながら、平和や人権などの問題を考える。 ・自衛隊・憲法改正問題など昨今の憲法に関するさまざまな論点について感心を深める。 ・基本的人権、新しい人権について、意欲的に理解を深め、その本質を把握する。 ・人権に関する判例を活用しながら、権利と義務などについて理解する。 ・人権を主張する際、時として「公共の福祉」が絡むことを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・提出課題 ・定期考査
	6	⑪国会の組織と機能 ⑫国会の権限と衆議 院の優越 ⑬内閣の機構と機能 ⑭裁判所の機能と人 権保障	<ul style="list-style-type: none"> ・国会、内閣、裁判所などの政治機構にふれながら、主権者としての政治に対する関心を深める。 ・国会、内閣、裁判所の関係とそれぞれの役割について、意欲的に理解する。 ・国会の権限、衆議院・参議院の違いを正確に把握する。 ・司法制度について正確に把握し、その上で司法制度改革についても考察する。 ・国会、内閣、裁判所に関する題材をさまざまなメディアを通して収集する。 ・法律の制定過程や裁判のしくみなどについて正しく理解する。 ・内閣の権限や違憲法令審査権について、正しく把握する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・提出課題

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	備考
1	7	⑮地方自治制度と住民の権利 ⑯政党政治と圧力団体 ⑰日本の選挙制度とその課題 ⑱世論と現代政治の課題	<ul style="list-style-type: none"> 望ましい政治のあり方や、主権者としての参政のあり方について考察する。 地方自治の本旨を理解し、地方自治のあり方について考察する。 議会政治における政党の役割について把握する。 選挙制度について学び、参政権の保障が国民主権へと連なっていることを認識する。 マス・メディアの果たす役割と問題点を理解し、世論の果たす役割が大きいことについて認識する。 国と地方の関係を地方分権をもとに考察する。 選挙結果の分析などを、新聞・テレビ・週刊誌・インターネットなどのさまざまな情報手段を活用して調査する。 マス・メディアがもつ影響力を把握しながら、報道は一つの判断材料であることを理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 提出課題 定期考査
	9	第2章 現代の国際政治と日本 ①第二次世界大戦後の国際社会 ②今日の国際社会 ③国際社会と国際法 ④国際連合の役割と国際協力 ⑤安全保障と日本の防衛 ⑥国際政治の特質と国際紛争の諸要因 ⑦国際平和と日本の役割	<ul style="list-style-type: none"> 第二次世界大戦後からの国際社会の展開を把握する。また、冷戦終結後の国際社会の動向について理解する。 国際政治と国内政治の違いを理解する。また、先進国と発展途上国などのように、国家間に格差が生じていることを把握する。 国際連合の役割を理解する。また、現実には国際連合はどのような問題を抱えているのかについても把握する。 冷戦時代と冷戦終結後の日本の安全保障体制について考察する。 NGOが国際政治に与える影響について、関心を高める。 民族紛争などを例に、複雑な国際関係を幅広い視点から考察する。 国際平和のために、日本が貢献できることは何かについて、さまざまな視点で考察する。 国際平和に関する問題について、さまざまなメディアを利用して調査する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 提出課題
2	10	第2編 現代の経済 第1章 経済社会の変容と経済のしくみ ①資本主義経済のしくみとは？ ②資本主義経済の課題と社会主義経済の変容 ③経済主体と経済活動 ④市場経済の機能と限界 ⑤景気変動と経済成長 ⑥財政のしくみとはたらしき ⑦租税と国債 ⑧資金の循環と金融市場 ⑨日本銀行と金融政策	<ul style="list-style-type: none"> 資本主義経済の特徴を、社会主義経済の特徴と比較し理解する。 家計・企業・政府が互いにどのように関わりあいながら国民経済を構成しているのかを理解する。 価格はどのようにして決まるのか、市場の基本である「需要と供給との関係」について、正しく理解する。 独占、寡占はどのようなものかを理解し、身近なものを取り上げて考察する。 株式会社とはどのようなものであるのかを、所有と経営の両面から理解する。 財政の基本的なしくみや役割について理解する。 巨額の公債残高は大きな財政負担であることを理解し、財政政策及び金融政策の重要性を認識する。 金融機関をはじめ、日本経済が抱えている問題について認識する。 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 提出課題 定期考査
	11	⑩インフレーションとデフレーション ⑪日本経済の発展 ⑫今日の日本経済 ⑬労働関係の改善 ⑭社会保障制度の充実	<ul style="list-style-type: none"> 経済成長率の推移、物価変動などの資料、経済政策に関する資料などを利用して、日本経済の動向を調査する。 経済成長とともに人々の生活が豊かになる一方で、公害などの社会問題が発生したことを認識する。 大企業と中小企業の関係、農業の課題、消費者問題など、日本が直面する経済問題について考察する。また、 	<ul style="list-style-type: none"> 小テスト 提出課題 定期考査

	12		<p>新聞記事などの資料を利用して調査する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・労働基本権と労働三法を正しく把握した上で、雇用情勢の変化について理解する。 ・日本の社会保障制度を体系的に捉えるとともに、現在の制度上の問題点と課題について考察する。 	
--	----	--	--	--

学期	月	学習項目	学習内容(ねらい)および評価の観点	評価方法
3	1	<p>第2章 国民経済と国際経済</p> <p>①国際経済のしくみと現状</p> <p>②為替相場のしくみ</p> <p>③国際協調と国際経済機関の役割</p> <p>④国際経済の特質と地域的経済統合の動き</p> <p>⑤国際経済の諸問題と日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際経済に関する基本的な概念や理論を理解する。 ・国際収支の基本的な構成を理解する。 ・なぜ、為替相場は変動するのか考察する。 ・円高・円安が、自分の生活にどのように影響するかについて関心をもつ。 ・円とドルの為替相場について、日本企業の海外での現地生産を例に考察する。 ・GATTの歩みとWTOの役割について、理解する。 ・グローバル化と地域的経済統合について関心を持ち、世界地図やインターネットなどを利用して具体的に考察する。 ・国際協調のために、どのような国際機関が存在するか、把握する。 ・貿易の自由化が経済に大きな影響を与え、それによって、地域的経済統合の動きなどがみられることを理解する。 ・世界には経済格差の問題があることを把握する。 ・日本の国際貢献のあり方について考察する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・提出課題 ・定期考査(3年)
	2	<p>第3編 現代社会の諸課題</p> <p>第1章 現代日本の政治や経済の諸課題</p> <p>①大きな政府と小さな政府</p> <p>②少子高齢社会と社会保障</p> <p>③住民生活と地方自治</p> <p>④情報化の進展と市民生活</p> <p>⑤産業構造の変化と中小企業</p> <p>⑥農業と食料問題</p> <p>⑦公害防止と環境保全</p> <p>⑧消費者問題と消費者保護</p> <p>⑨労使関係と労働市場</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・現代の日本が抱える課題を、政治と経済との関連に留意しながら、さまざまな角度(視点)から考える。 ・現実社会の諸課題は、政治と経済が深く結びついていることを理解する。 ・生活に関連する面を中心に関心を高め、意欲的に理解を深める態度を身につける。 ・対比する意見などをもとに、さまざまな意見・論調に積極的にふれる。 ・第1編・第2編の学習の成果の上に立って課題を追究する。 ・「スキルアップ」などをもとに、簡単なレポートを書いたり、ディベートなどを行ったりする。 ・具体的事例をもとに、それぞれの問題を多角的、多面的に追究する。 ・政治と経済は密接に関連しており、互いに影響を与えていることを理解する。 ・それぞれの課題には、さまざまな角度からの対応策があることを把握しながら、幅広い視点から考察することを身につける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・小テスト ・提出課題 ・定期考査(2年)

3	<p>第2章 国際社会の政治や経済の諸課題</p> <p>①地球環境問題</p> <p>②資源・エネルギー問題</p> <p>③核兵器の廃絶と軍縮</p> <p>④人種・民族問題</p> <p>⑤南北問題と国際協力</p> <p>⑥経済摩擦と外交</p> <p>⑦国際社会における日本の役割</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・国際社会における課題は複雑なものであり、国内だけでなく国際的な面からも、また、政治や経済の面からも課題を追究する必要があることを認識する。 ・国際社会の課題は、国際関係に大きな影響を与えることを認識する。 ・さまざまな観点から課題を追究する態度を身につけ、国際社会における日本の役割について考察する。 ・身の回りの具体的な事例をもとに、地球環境問題などの世界的な諸問題について考察する。 ・第1編・第2編の学習の成果の上に立って課題を追究する。 ・国際社会における諸課題を日本の立場や役割から考察する。 ・それぞれの課題に対して、国際社会における日本のとるべき立場を考えながら、プレゼンテーションなどをする。 	<p>・提出課題</p>
---	---	---	--------------